

エチオピアにおける初等教育中退後の学習機会の検討
－夜間学校の出席状況に影響する要因に着目して－
Investigation of education opportunities after primary school dropout in Ethiopia
- Focusing on factors related to attendance at evening school -

47-186786 太田みなみ
指導教員：坂本麻衣子 准教授

キーワード：中退・代替教育・夜間学校・出席状況・エチオピア

1. 研究背景

1990年に19.1%であったエチオピアの初等教育純就学率は、2018年には86.3%にまで劇的に改善した。一方で、義務教育である初等教育8年間を修了するのは現在でも53.5%にとどまっており、世界全体の初等教育修了率90.3%はもちろん、サハラ以南アフリカの68.7%と比較しても低い(World Bank Data Bank)。初等教育修了率の低さは現在まで残された課題の一つである。このような状況を鑑み、エチオピア教育省も最新の教育ロードマップの中で、中退率の改善および中退経験者や成人非識字者向けの代替教育の拡充が教育分野における重点課題であると言及している(MoE ESC, 2018)。

しかし、ある程度蓄積がある中退要因に関する研究等に比べ、中退後の生活や復学経緯、中退後の教育機会に関する研究は少ないのが現状である。そこで、本研究はエチオピアにおける中退後の教育機会に着目し、中退者にとって有効に機能する教育とはどのようなものかを大きなテーマとしている。

2. 研究目的

中退後に再度教育機会を得るには、大きく2通りの方法があると考えられる。1つ目は初等教育機関に復学する方法、2つ目は代替教育機関に就学する方法である。

1つ目の方法に関して、エチオピアの公立初等教育機関では中退後も年齢や非就学期間にかかわらず復学を認める制度があるが(MoE, 2011)、実際に制度を活用して復学を果たしているのは中退者のうち2割程度にすぎない(JICA, 2012)。また、既存研究からは復学者と非復学者の相違点については明らかになっていない。

2つ目の方法に関しては、教育省が実施している Integrated Functional Adult Education (IFAE) という2年間の成人識字教育プログラム(MoE, 2017) および、UNICEF が実施している Alternative Basic Education (ABE) という遠隔地の初等教育未就学者を対象としたプログラム(UNICEF, 2017) が知られているが、エチオピアの代替教育プログラムについて体系的にまとめた文献資料は見当たらない。

また、本研究を進める中で、中退者のニーズに最も適合していると考えられた代替教育機会は夜間学校であったが、出席状況や

修了試験合格率に課題があることが一次調査により確認された。既存研究では、成人教育における欠席理由は就業との両立が困難であるためと説明されてきたが(Pankhurst, 2015; 齋藤, 2005)、就業以外の要因から出席状況を分析した研究は見られない。

そこで本研究では以下の3つを研究目的とする。

1. 復学者と非復学者の違いを明らかにすること。
2. エチオピアで実施されている代替教育の分析を行うこと。
3. 夜間学校における低い出席率と修了試験合格率に影響を与える要因を就業状況以外から明らかにすること。

3. 一次調査

一次調査では文献調査からは十分な情報が得られなかった、復学者と非復学者の違いやエチオピアで実施されている代替教育について明らかにすることを目的に、首都アディスアベバとオロミア州で、復学者、非復学者、代替教育機関生徒を対象とした半構造化インタビューおよび公立初等教育機関と代替教育機関の視察とデータ収集を行った。

インタビュー調査から、復学者は病気や転居など一時的な理由で中退した者が6割を超え、経済的困難を理由に中退した者は3割にとどまっている一方、非復学者は経済的困難を理由に中退した者が9割を超えていることが明らかになった。また、復学者の9割が復学にあたり家族または親族の支援を得られたと答えているのに対し、非復学者で支援を得られた者はいなかった。さらに、非復学者の9割が復学を希望している状況も確認され、中退者が家族や親族からの支援を期待できない場合にも就学希望を実現できるよう、何らかの代替教育が必要であることが確認された。

文献調査および一次調査で実施が確認された代替教育は、以下の表に示した5つである。Alternative Basic Education (ABE) と NGO 運営校、スピードスクールは、地域または年齢によって対象者が限定されており、希望者が誰でも就学することはできない。Integrated Functional Adult Education (IFAE) は識字に焦点化したプログラムであり正規教育との同等生が認められていない。したがって、中退経験者が年齢の上限なく自身の意思で就学することができ、かつ正規教育修了と同等の修了資格が得られる代替教育機会は、夜間学校のみであることが明らかになった。

しかし、夜間学校の視察からは、50%程度の低い出席率および10~20%程度の低い初等教育修了試験合格率から、現時点では中退者の教育機会として有効に機能しているとは言い難い状況にあることも明らかになった。これを二次調査の問題の所在とした。

表 エチオピアの代替教育

代替教育	対象者	年齢	内容	時間	同等性	実施者
IFAE	成人非識字者	15 -	識字・計算 生活知識	-	×	政府
夜間学校	初等教育 未修了者	15 -	初等教育と 同様	17:00-	○	政府
ABE	G1-4 未修了者 (僻地)	7- 14	初等教育と 同様	昼間	○	UNICEF
スピード スクール	G1-3 未修了者	9- 14	G1-3 内容 1年で履修	昼間	○	コンサル
NGO 運営校	孤児など 就学困難な者	-	初等教育と 同様	昼間	○	NGO

4. 二次調査の方法

二次調査では、夜間学校における低い出席率と初等教育修了試験合格率に影響する要因を就業状況以外から明らかにすることを目的に、アディスアベバの夜間学校において、学校保有データの収集と生徒を対象とした質問紙調査を行った。

質問紙調査は第1学年生徒9名、第4学年生徒52名、第8学年生徒84名の計145名を対象に実施した。質問紙は英語とエチオピアの公用語であるアムハラ語を併記し、回答方法は選択式とした。内容は、就業状況や出身地、使用可能言語等を含む生徒個人に関するもの、各教科の出席状況や理解度および満足度、学校施設や教員に対する満足度や改善希望点などである。

5. 結果と考察

既存研究では成人教育の欠席理由は就業との両立困難であると説明されてきたが (Pankhurst, 2015; 齋藤, 2005)、夜間学校での調査においては職業と出席状況には有意な関係が認められなかった。一方で、教科理解度、教科満足度、学校施設満足度、教員のケアの4つの要因と出席状況との関連が認められた。

さらに、教科理解度を規定する要因を分析すると、夜間学校生徒の使用可能言語が教科理解度に影響を与えている状況が明らかになった。初等教育4年次までの教授言語であり公用語でもあるアムハラ語を使用可能言語に選択した生徒は46%にとどまり、夜間学校はエチオピアの中でも特に他民族、多言語が入り乱れる状況の下にあることが確認された。

教科満足度の改善に寄与すると考えられる教科ごとの改善希望点については、難易度に関するものと、「宿題を出す」が最も多く選択された。また、学校施設満足度では、夜間学校生徒の4人に1人が学校施設に関し何らかの不満を持っていることが明らかになった。改善希望点ではトイレが最も多く選ばれ、女子生徒においては改善希望点の約半数をトイレが占める結果となった。

教員のケアについては、「教員の質問への回答態度」「教員の生徒への個人認識」「教員との会話頻度」の3つと有意な関連があることが確認された。

6. 結論

調査結果に基づき、出席状況の改善と教科理解度の改善の両観点から、より有効に機能する夜間学校に向けた提言を行った。

第1に使用可能言語によって教科理解度に差が生じている結果から、教授言語であるアムハラ語のフォローアップ機会を授業内および授業前後に設けること。第2に授業予定と共に単元ごとなどまとまった単位での宿題を課すことで、1人1冊教科書配布がかなわない学習環境下での教科の体系的理解促進と理解度のばらつき補正を行うこと。第3に追加設備としてトイレに電灯を設置し夜間の安全を確保すること。第4に現在は行われていない出欠管理の実施と授業間の休憩時間の導入により、教員による生徒の個人認識および質問への回答時間確保に役立てることである。

7. 今後の課題

本研究の調査方法については、夜間学校の出席状況を問題の所在として挙げながら、出席している生徒のみを対象として調査を実施しており、欠席している生徒の状況把握ができていないことが弱点である。

また、本研究に残された問いとして、夜間学校における女子の初等教育修了試験合格率が男子に比べ顕著に低い理由の解明がある。夜間学校における初等教育修了試験合格率はデータが得られた4年間全てで男子の方が女子よりも高く、違いが大きい年度では7倍もの差になっている。しかし、二次調査からは出席状況、教科理解度共に女子の方が良好であるとの結果が得られ、女子の合格率の低さを説明する要因は発見できなかった。これは女子が7割以上を占める夜間学校において大変大きな問題であると考えられるため、理由の解明を今後の課題としたい。

主要参考文献

- Ministry of Education Education Strategy Center (ESC). (2018). Ethiopian Education Development Roadmap (2018-30)
- Pankhurst, Alula, Gina Crivello, and Agazi Tiumelissan. Work in children's lives in Ethiopia: Examples from young lives communities. *Children's work and labour in East Africa: Social context and implications for policy* (2015): 41-74.
- 齋藤英介. (2005). バングラデシュ政府による成人基礎識字教育の問題: Total Literacy Movement (TLM) を事例として. *国際基督教大学学報 1A, 教育研究* (47), 49-59.
- 谷口京子. (2017). マラウイ農村部の小学校における退学要因. *広島大学教育開発国際協力研究センター国際教育協力論集*, 20(1), 1-15.